

インターバンクの声（2014 年 6 月 2 日）

5 月最終営業日のニューヨーク市場は、主要通貨に取り立てて波乱が起こることもなく、ドル円もおおよそ 5 月の平均値に近い水準で取引を終えた。5 月の円相場を振り返ると、月初の米雇用統計発表後に一瞬 103 円台に到達する局面があったものの、いくつかの市場の懸念材料による避難通貨買いの対象となったり、米金利の低下が大きく影響したため何度となく円買い圧力が掛り易い状況が続いた。月後半には米金利の低下にもブレーキが掛り始めたことや、200 日移動平均線がサポートとなってさらなる円買いを躊躇させたことで相場は 102 円近くに戻っているが、市場のセンチメント自体は依然として 100 円方向の円高を睨んでいるようだ。しかも、5 月最終週あたりからは、向こう 1 ヶ月間に 98 円までの円買いを見越したオプション設定が多くなっているとの情報が盛んに流れており、各国の中央銀行の政策決定や米雇用統計の結果が想定外となるような場合には久々に大きく仕掛けてくるかも知れない。逆に米経済指標などが米経済の順調な回復を示すようであれば、市場の見方も一気にドル買い方向に戻ってくる可能性もあるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。